

研究・調査報告書

報告書番号	担当
138	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Effects of habitual alcohol intake on ambulatory blood pressure, heart rate, and its variability among Japanese men. 日本人男性における自由行動下に測定した血圧・心拍数およびその変動に対する習慣飲酒の影響	
執筆者	
Ohira T, Tanigawa T, Tabata M, Imano H, Kitamura A, Kiyama M, Sato S, Okamura T, Cui R, Koike KA, Shimamoto T, Iso H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Hypertension. 2009 Jan;53(1):13-9. Epub 2008 Nov 24.	
キーワード	
アルコール摂取、自由行動下血圧測定、自律神経機能、心拍数変動、一般集団対象	
要旨	
<p>目的： 日本人男性で自由行動下に測定した血圧、心拍数、心拍数変動に及ぼす習慣飲酒の影響を検証した。</p> <p>方法： 都市および非都市部における地域集団からの男性 539 名（年齢 35～65 歳）を対象とした。非侵襲的で自動化された携帯式生物学的多指標記録装置を用いて自由行動下に血圧、心拍数をモニターした。心電図 RR 間隔のパワースペクトル解析を 5 分ごとに行った。</p> <p>結果： 非飲酒者と比較して中等量飲酒（アルコール摂取量 23-45 g/日）および大量飲酒者（アルコール摂取量 46 g/日以上）では午前中と覚醒時の平均血圧（収縮期、拡張期ともに）値が高かった（年齢、地域で調整済み）。しかし、24 時間全体および睡眠中にはこれらのアルコール摂取によるグループ間の違いは認められなかった。アルコール摂取は血圧、心拍数における睡眠・午前中差の平均値および日中較差平均値と正の関連を認めた。また睡眠中の低頻度：高頻度比とも正の関連を認めた。これらの関連は body mass index、喫煙、糖尿病で調整後も実質上変わらなかった。年齢、地域で調整後の午前中血圧上昇（午前中における血圧の過剰な上昇：午前中の収縮期血圧—睡眠中収縮期血圧≥ 37mmHg で定義）のオッズ比は軽度飲酒（アルコール摂取量 0—22 g/日）者 0.96 (95%CI: 0.34—2.78)、中等量飲酒者 1.68 (95%CI: 0.64—4.38) 大量飲酒者 2.73 (95%CI: 1.12—6.67) であった。</p> <p>結論： 習慣飲酒は午前中の血圧上昇、覚醒および睡眠中の心拍数、睡眠中の交感神経活動と関連していた。大量飲酒と循環器疾患リスクとの関連を説明する機序の一部として、本研究で観察されたこのような現象が関わっている可能性がある。</p>	